
傘

抹茶小豆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傘

【Nコード】

N4327N

【作者名】

抹茶小豆

【あらすじ】

ある雨の夜、俺は彼女と出会ってしまった。

(前書き)

『200文字小説で三題噺の「傘・浮き草・黄泉の国」』で中原可
絵先生にコメントをいただき、書いた作品です。

先ほど降り出した雨は段々と強くなり、手にしている折り畳み傘はもはやあまり役に立たない。激しい雨に叩きつけられ、スラックスもシャツもすでに悲惨な有様である。急な残業で思わぬ時間をくってしまったと、腕時計に目をやる。終電まで際どいところか。俺は走り出した。

閑散とした深夜のオフィス街は濃い闇に吞まれ、ビル群はまるで巨大な墓石のような不気味さでそびえ立つ。その間をぬって、おおおおおと怒れる怨念のような音を立て、風がうねり通り抜けていった。雨に煙るネオンは、さながら鬼火のように妖しく揺らめいている。

地下鉄の駅に向かう途中にあるバス停の前で、女がひとり佇んでいる。

もうとつくに最後のバスは出たであろうに。

これだけの土砂降りの中女は手に持った傘を差すこともせず、じっとその場所に立ち尽くしていた。

白いワンピースはすでに濡れて、華奢な身体のラインをあられもなく浮き彫りにしている。

「あの、大丈夫ですか？」

ただ通り過ぎるのも気が引けて、俺は女に声をかけた。

女は無言のままに下を向いている。長い黒髪が顔を覆いその詳細はわからない。

髪を伝う滴がせわしく地面にしたたり落ちていた。

まあ、いいか。

俺は女を通り過ぎ、駅へと急いだ。

地下鉄の駅の入り口を見つけ、ホッと胸をなでおろす。

地下へと降りていく階段を一段降りるたびに雨音が遠ざかり、静けさが耳を打つ。

人っ子ひとりいない地下道に靴音がやけに大きく響き渡り、落ち着かなかった。

電気代をけちっているのか妙に薄暗い。

蛍光灯がじじっと鳴って、ついたり消えたりを繰り返していた。

一陣の生温かい風が吹き抜け、誰かが捨てていったアルミ缶がカラncランと甲高い音を立てて転がっていく。

湿った空気に鉄のさびたような匂いが交って血を連想させた。

「気持ちの悪い夜だ」

そう呟いて、俺は背中をすくませた。

ぴちゃん……ぽとん……。

悪寒が走る。

ぴちゃん……ぽとん……。

誰もいないはずの背後に感じる気配。

ぴちゃん……ぽとん……。

掌が汗ばむ。

心臓が早鐘のように高鳴って、俺はゆっくりと背後を振り返る。

誰もいなかった。

ほっと息をつき、前を向く。

ぴちゃん……ぽとん……。

「ひっ」

悲鳴が凍りつく。

白いワンピースを着た、長い黒髪の女がずぶ濡れで立っていた。

俺は走った。

女から逃げようとひたすらに。

「逃がすかあ！」

女は手に持っていた傘を俺に投げつけた。

背中から胸に傘が貫通した。

「ぐはっ……」

大量の吐血。

ぴちゃん……ぽとん……。

血溜まりの中、俺は倒れた。

女の蒼白な面に返り血がひどく鮮やかに映え、かっと見開いた瞳には幾筋もの赤い血管が走っていた。

「好きです？」

途切れゆく意識の中で聞いた、照れ屋な彼女の告白だった。

その後、奇跡的に助かった俺は、懲役を終えた彼女と目出度くゴールインしたのである。

現在も二人しあわせに暮らしている。

——ふたりを出会わせてくれた、あのミステリアスな夜に乾杯

— — —

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4327n/>

傘

2010年10月8日16時12分発行